

日本映画放送株式会社 第61番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成30年1月16日(火) 15時～16時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席: 委員総数 8名 / 出席委員数 8名
出席委員(順不同、敬称略): 菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・砂川 浩慶・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
放送事業者側出席者: 代表取締役社長 杉田 成道
常務取締役 佐藤 信彦
執行役員編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部副部長 樋渡 典英
編成制作部副部長 小川 英洋
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)
4. 議題 (1) 審議事項 時代劇専門チャンネル オリジナル時代劇
「吹く風は秋」「小ぬか雨」(「橋ものがたり」シリーズ)
(2) 報告事項 日本映画専門チャンネル 東海テレビ ドキュメンタリー傑作選

5. 議題(1) 概要

時代劇専門チャンネルでは2015年に時代小説の名手、藤沢周平作品を映像化する一大プロジェクト「藤沢周平 新ドラマシリーズ」を開始し、これまでに5作品を制作してきた。2017年に始まった「藤沢周平 新ドラマシリーズ 第二弾」では、江戸の人々にとって生活の一部だった“橋”に着目した名短編集『橋ものがたり』から、3点を映像化した。今回審議対象としたのは、そのなかの2作品。「吹く風は秋」はベテラン俳優橋爪功主演でフジテレビのドラマで知られる鈴木雅之が監督し、博奕打ちの矜持を描き出す。「小ぬか雨」は撮影当時88歳だった名匠、井上昭が監督し、若手俳優の北乃きいと永山絢斗が密室の恋を演じる。両作品は、キャスト・監督、内容・作風など様々な点で対照的な作品に仕上がった。

【審議 POINT】

- シニア俳優主演作と若い俳優主演作の好対照な2作となったが、作品をどう評価するか。
- 本シリーズは「グッドモーニング時代劇」として全国劇場で公開するなど、マルチな展開をしているが、こうした作品の展開についてどう考えるか。

6. 議題（1）審議内容

- ・「橋ものがたり」シリーズは人情の機微をたっぷりと描く藤沢ワールドらしい仕上がりで、文句なく楽しめた。マルチ展開は基本的にやるべきだと思う。様々なデバイスで作品を展開する御社ならではのメリットがあるなら教えてほしい。
- ・「橋ものがたり」はコクがあって味わい深い質の高いシリーズになった。「小ぬか雨」は余韻のあるラストとタイトル通りに降る雨の映像が相まって素晴らしかった。「吹く風は秋」は、老博徒が大博奕を打つ話と女郎との淡い交情のバランスが良い。優れた作品はどんどんマルチ展開すべきで、今後も作品作りに頑張ってもらいたい。
- ・藤沢原作であれば内容は確かなので、映像化の際に配役や演出などもっと冒険してもよいのではないかと。「吹く風は秋」は配役の妙に感心し、意外な選曲や映像処理などの新鮮な演出がはまっていた。対して大ベテランの井上監督の「小ぬか雨」も手練れで、そつがなく、さすがだ。1時間の時代劇は気軽に、国際線の機内上映にも向いているだろう。
- ・正月三が日の地上波はバラエティ番組ばかりだったので、新作時代劇2作にテレビ視聴者は救われたのではないかと。最新作の放送に合わせて、関連過去作をセットで打ち出す売り出し方も良い。他がやらないことにどんどん挑戦していただきたい。
- ・2作とも約1時間で納まりが良いし、マルチ展開に向いているだろう。時代劇にも若いファンはいるし、育てられるのではないかと。これほど質の高い時代劇ならば、通常とは正反対のターゲットを狙うのも一案だと思う。
- ・次も見たいと思った。2~3作品追加するとシリーズの認知にもっと繋がるのではないかと。マルチ展開に関しては、VODに興味がある人も増えているので検討してほしい。
- ・地上波では時代劇が激減し、若い俳優が時代劇に挑戦する機会が減っているのは残念だ。こうした作品を通じ、時代劇専門チャンネルの力で、もっと機会を増やしてほしい。
- ・「吹く風は秋」の出だしは西部劇のような演出で、思わず見入った。斬新な演出とベテラン俳優橋爪功のマッチングは見応えがあった。「小ぬか雨」は行間の間や、作品のしっとりした感じが原作通りに表現されていた。3作を見て、チャンネルが狙う三者三様の時代劇が制作できたのだと感じた。今後も良質のオリジナル時代劇を作り続けてほしい。

各委員からの発言に対して、当社からの説明・回答は以下の通りであった。

- ・原作の書店展開や、朝10時からの劇場上映をしたことは、作品やチャンネルの認知向上に効果的だった。オリジナル時代劇をまとめてVOD展開できないかと模索している。
- ・劇場でチャンネル宣伝を出来るので総合的な宣伝告知効果が上がっている。「小ぬか雨」の上映に若者が多数来場し、劇場にも間口を広げた意義を感じた。また仲代達矢主演「果し合い」が予想の2倍以上レンタルされたとの報告が来ている。国際線での機内上映は、今まさに全日空で実施しており、好評であれば継続して作品を提供していきたい。
- ・オリジナル時代劇を制作し続けることが、有料多チャンネル放送で生き残る秘訣だと考えている。2018年は放送開始20年の節目、変革の1年となるだろう。

7. 議題（2）報告事項

【日本映画専門チャンネル 東海テレビ ドキュメンタリー傑作選について】

12月10日に「東海テレビ ドキュメンタリー傑作選」を一挙放送した。目玉は昨年1月から全国劇場公開した『人生フルーツ』。公開後1年近くもロングランした人気作のテレビ初放送で、放送当日の新聞広告にカスタマーセンターへの問い合わせが殺到し、新規加入が多く得られた。今年も視聴者のために、東海テレビ作品など、見たくてもなかなか見られない地方局制作のドキュメンタリーを多数編成する予定だ。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成30年3月20日(火)15時より開催。